

輸出事業計画

※申請者名：あいち海部農業協同組合、品目：れんこん

1. 輸出における現状と課題

【現状】

愛知県は、江戸時代かられんこんが栽培される全国第4位（令和元年産）の産地であり、JAあいち海部管内（栽培地は愛西市）がその大半を占めている。れんこんは、煮炊きが必要な食材でその需要期は冬期であるが、需要期以外での販売は苦慮しており、れんこんの新たな調理方法の提案などSNSツールを活用して需要の喚起を行っているが、改善には至っていない。そこで新しい販売先として海外にチャンネルを開きたく、輸出への取組を開始した。

【課題】

れんこん栽培では農薬散布が全労働の1割を占め、個人農家では1.5ha程度の栽培面積が限界となっている。

鮮度を保持しながら輸送するための保存方法、包装資材の検討が必要である。

収穫時期が一定時期に集約されるため、青果輸出のみでなく、加工品での輸出を検討する必要がある。

海外では日本産れんこんの認知度は十分とは言えないので、プロモーションを行う必要がある。



2. 輸出事業計画の取組内容

①ドローンによる農薬散布試験

ドローンによる農薬散布試験の結果を踏まえ、生産者の圃場を取りまとめてドローンでの農薬散布を実施する。

②れんこんの鮮度維持試験

れんこんの鮮度維持試験の結果を踏まえ、バラ冷凍の船便輸送や生れんこんの航空輸送等を検討する。

③加工品の開発と販売

れんこんチップス等の加工品を開発、販売する。

④海外販路の確保

展示会の出展と試食やSNS投稿用ショート動画作成、海外バイヤー及び商社向けSNS投稿により、海外販路を確保する。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制

国（支援チーム）、愛知県、愛西市、JAあいち経済連、ジェトロ

支援

出荷

連携

【海外】

卸売業者
量販店
食品会社
飲食店
ホテル等

れんこん
出荷組合
(128戸)

委託販売

JAあいち海部
(れんこんセンター)

輸出業者
(商社)

○以下の手順で、PDCAを回していき、継続的に改善を図っていく。

P（計画）：輸出版売計画を作成する。

D（実行）：輸出国への販売促進活動を実施し、販売の拡大を図る。

C（チェック）：計画の達成状況を確認し、評価する。

A（改善）：達成状況により計画を見直し、新たな改善計画を策定する。

4. 輸出目標額

れんこん	現状（令和5年度）	目標（令和9年度）
輸出額	0 円	440万円
輸出量	0 t	8 t
輸出先国	（実績なし）	米国、シンガポール、香港